

松本市杵坂遺跡 松本市本郷小学校敷地遺跡

—緊急発掘調査報告書—

1988・3

松本市教育委員会

序

本書は、本郷小学校及び女鳥羽中学校の改築に伴う小学校敷地内、杵坂遺跡の調査報告書です。

当遺跡のある本郷地区や岡田地区は、歴史上から見ても遺跡が数多く存在する地区として知られておりました。最近の調査例をみても、岡田西裏遺跡や、大村廃寺の調査などがあります。また、本郷地区は隣接する里山辺地区の一部を含めて国府跡の推定地となっております。

今回の調査でも歴史上重要な遺物・遺構の発見が期待されましたが、残念ながら出土はみられませんでした。しかしわずかではありますか縄文土器などが発見され、付近に遺構の存在が推定されるものがありました。

調査結果は残念なものでありましたが、今後も文化財を大切にして地区の歴史解明に、また発展に役立てたいと思います。

調査にあたり、ご協力、ご便宜をいただいた女鳥羽中学をはじめ関係機関、各位に対しても心から謝意を表して序といたします。

昭和63年3月

松本市教育委員会

教育長 中島俊彦

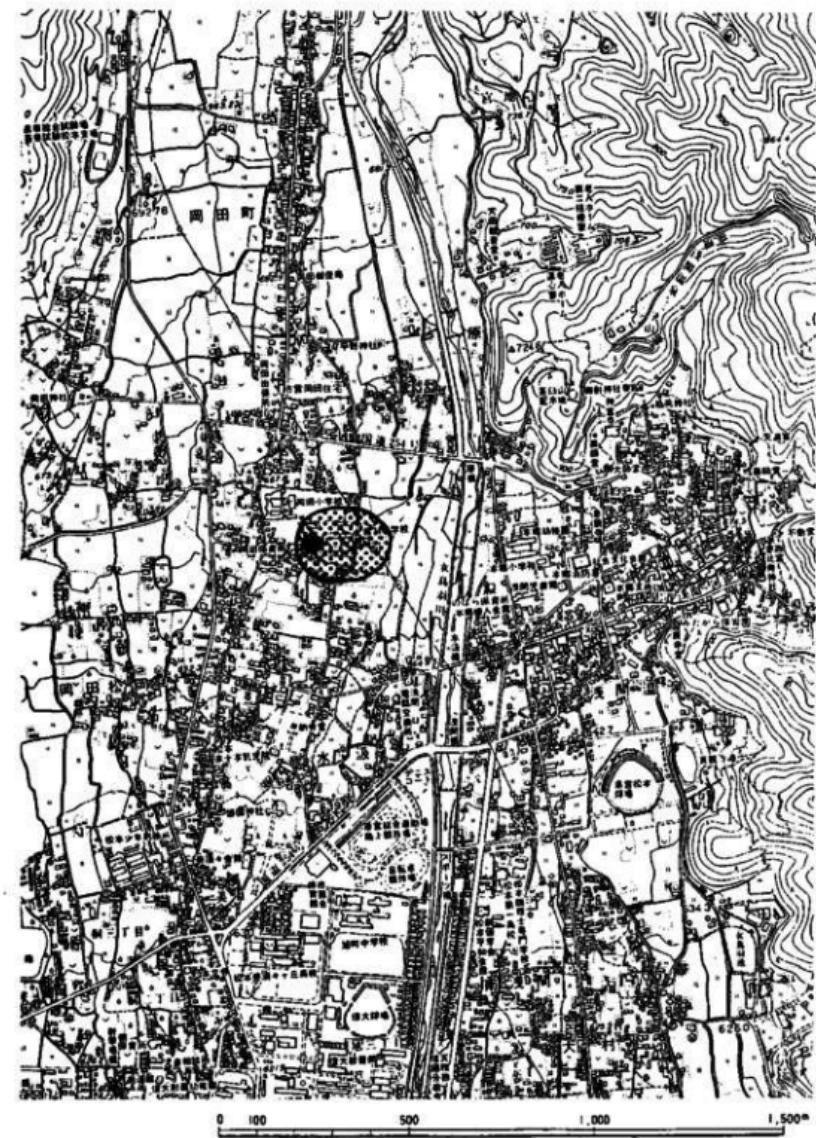
松本市杵坂遺跡

例　　言

- 1 本書は昭和62年6月10日から24日にわたって実施された杵坂遺跡緊急発掘調査の報告書である。
- 2 本調査は松本市立女鳥羽中学校の屋内運動場、特別教室棟改築に伴う緊急発掘調査であり、松本市教育委員会が直営事業として実施したものである。
- 3 本書の執筆は直井雅尚が行い、編集は滝沢智恵子の助力を得た。
- 4 出土遺物、測量図面類および作業日誌類は松本市教育委員会が保管している。

目　　次

I 調査経過	
1 事業の経緯	3
2 調査体制	3
3 作業日誌	3
II 遺跡の環境	
1 立地	5
2 周辺遺跡	5
III 調査結果	
1 概要	7
2 遺構	7
3 遺物	7
4 まとめ	7



第1図 柴坂遺跡分布図と調査位置

I 調査経過

1 事業の経緯

松本市教育委員会では市内の小中学校の老朽校舎の改築建替えを積極的に進めており、本年度の対象の一つに女鳥羽中学校屋内運動場および特別教室棟が含まれていた。ところが今回の対象地一帯は埋蔵文化財包蔵地杵坂遺跡（長野県教育委員会作成遺跡分布地図No.松本市 223）の範囲内にあたり、当該文化財の保護に対する配慮が必要になった。このため担当各課で協議を進めた結果、改築工事等に先立ち緊急発掘調査を実施して、記録保存を行うこととなった。

発掘調査は松本市教育委員会が直営で、昭和62年6月10日から6月24日にかけて実施した。

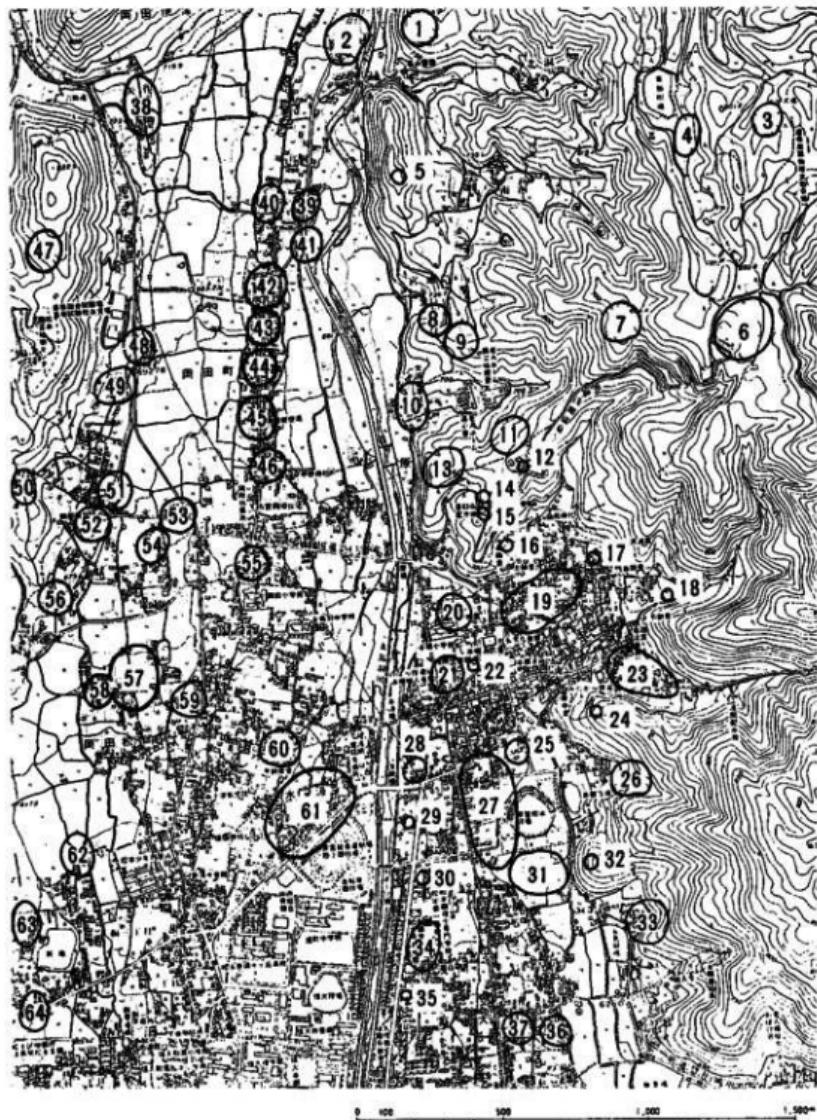
2 調査体制

調査團長	中島俊彦（松本市教育委員会教育長）
調査担当者	神沢昌二郎（市立考古博物館長）
現場担当者	直井雅尚（社会教育課主事）
調査員	土橋久子（長野県考古学会員）
協力者	石川末四郎、岩野公子、大出六郎、大塚袈裟六、小池直人、小松啓吾 神戸 蔽、瀬川長広、鶴川 登、中島新嗣、新納道子、林 昭雄、藤本嘉平 降旗大太郎
事務局	浅輪幸市（社会教育課長）、小松 眑（文化係長）、熊谷康治（主事）

3 作業日誌

昭和62年6月10日（水）曇 土層確認のための試掘

6月11日（木）	晴	重機（バックホー）による表土除去作業開始
6月12日（金）	晴	重機（バックホー）による表土除去作業終了
6月18日（木）	晴	発掘機材搬入
6月19日（金）	晴のち曇	1地区遺構検出作業開始
6月22日（月）	晴	1地区遺構検出・土壤掘り下げ、2地区遺構検出・掘り下げ
6月23日（火）	晴	全体測量、遺構測量、遺構写真撮影
6月24日（水）	晴	発掘機材撤収



第2図 周辺遺跡

II 遺跡の環境

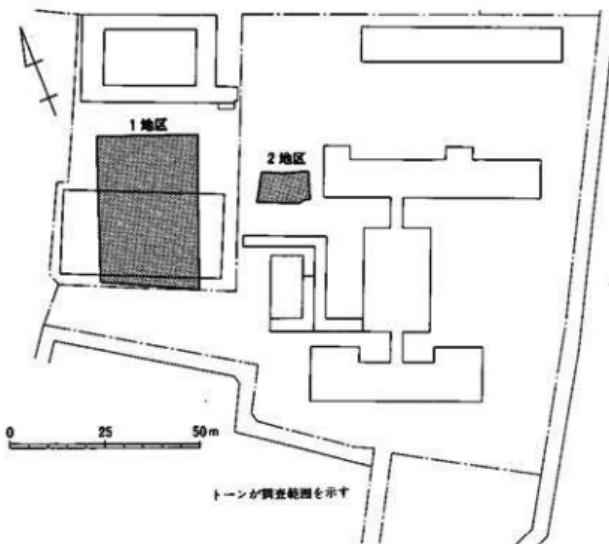
1. 立地

本遺跡は、松本市北部、本郷地区と岡田地区のほぼ境界上の、松本市原1085-2に所在する松本市立女鳥羽中学校敷地一帯およびその東方に広がっている。周辺は畠地、宅地として土地利用されている。地形的には、本遺跡東方を南流する女鳥羽川の造る河岸段丘上の南向き緩斜面に位置する。標高は660～662mで女鳥羽川の氾濫原からは6m前後の比高差がある。女鳥羽川は三才山の谷を抜けた後、流路を大きく南に転じ両岸に段丘を造りながら松本市内に向かって南下するが、平坦地に至る間にその流域地帯に多数の遺跡が残されており、本遺跡もその一つである。

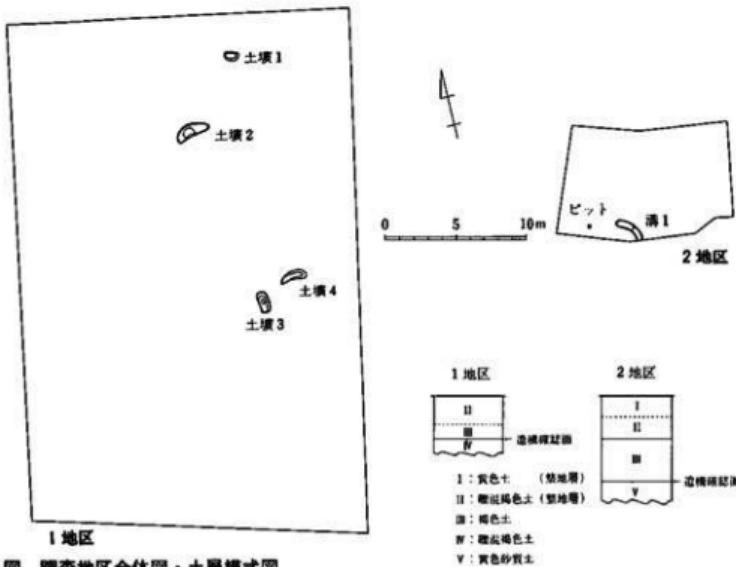
2. 周辺遺跡

前述のように、女鳥羽川流域の本郷・岡田地区には多数の遺跡が分布する。しかし正式な発掘調査が行われているものは僅かで、位置、範囲および時期は踏査あるいは既出品により把握されている。凡その位置、範囲は第2図に、名称と時期（分かるもののみ）は以下に、一覧する。

1. 高山遺跡	17. 城内館跡	33. 新切遺跡	49. 西光寺遺跡
2. 一里塚遺跡	奈平	18. 橋谷古墳	50. 清水入古墳
3. すます池遺跡		19. 鳥居前遺跡	51. 宮北遺跡
4. 箕和田遺跡	織弥古	20. 小学校敷地遺跡	52. 宮ノ後遺跡
5. 早落岱跡		21. 高田遺跡	53. 中田遺跡
6. 雨堤遺跡	織弥古	22. 下浅間館跡	54. 堀之内遺跡
7. 山屋清水遺跡		23. 大音寺遺跡	55. 猫塚遺跡
8. 穴田遺跡		24. 桜ヶ丘古墳	56. 矢崎遺跡
9. 宮地遺跡		25. 新湯南裏遺跡	57. さがり遺跡
10. 穴田前遺跡	古	26. 飯治洞遺跡	58. 山伏塚遺跡
11. 恒利尾遺跡		27. 柳田遺跡	59. 上ノ段遺跡
12. 本社峠古墳群		28. 柴田遺跡	60. 反目遺跡
13. 北ノ庭遺跡		29. 大屋敷古墳	61. 水汲古墳群
14. 茶臼山古墳群		30. 大屋敷古墳	62. どうこん原遺跡
15. 茶臼山砦跡		31. 大村遺跡	63. キツネ塚遺跡
16. 神宮寺籠跡		32. 炙義山古墳	64. 白金町遺跡



第3図 調査地区範囲図



第4図 調査地区全体図・土層模式図

III 調査結果

1. 概要

最終的に屋内運動場建設予定地（吹き抜け部分を含む）のうち 993 m²、特別教室棟建設予定地のうち 99 m²、計 1092 m²について発掘調査を行った。発見された遺構は、1 区から土壙 4 基、2 区から溝 1 本、ピット 1 基、を数えるのみである。遺物は 1 地区の検出面から土器片が 1 点出土したのみで、遺構に伴うものはみられなかった。

2. 遺構

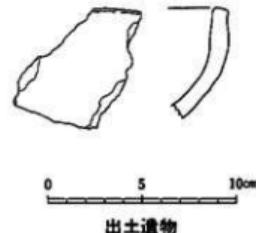
土壙、溝、ピットがある。土壙はいずれも 1 地区で発見された。土壙 1 は長径 100 cm、短径 65 cm のやや不整な橢円形を呈し、深さは 12 cm を測る。覆土は、しまりのない褐色土の単層であった。土壙 2 は、長径 245 cm、短径 90 cm の、橢円形を二つに割ったような平面形を呈す。深さは、約 25 cm くらいで、一旦平らな底に達した後、さらに中央部に 10 cm ほどの窪みをもつ。覆土は土壙 1 同様、しまりのない褐色土単層であった。土壙 3 は、長径 135 cm、短径 75 cm の若干角の張った橢円形を呈し、底は 2 段で北から東側にテラスをもつ。掘り込みの上端からテラス上段までが 20~24 cm、下段までが 45 cm を測る。覆土は他の土壙と同様、しまりのない褐色土である。土壙 4 は、平面形が、長さが 190 cm、幅が 45 cm ほどの、弓なりに反る不整な橢円形を呈し、壁の傾斜もなだらかである。深さは 30 cm を測る。覆土は、他の土壙と同じで、しまりの悪い褐色土が充満していた。これらの土壙は、いずれも遺物の出土がなく、時期については不明である。しかし、覆土の状態がよく似ており、時期的あるいは成因の類似をみると考えたい。溝は、2 地区南端に調査区域外へかかるようにしてあり、幅は約 50 cm、西方へ大きく屈曲する形で先端は丸い。先端部一帯が僅かに深くなっている、深さは 28 cm、他の部分は 23 cm を測る。覆土はやや砂質の褐色土で、よくしまったものであった。ピットは、西方を向く溝の先端の、さらに西 2 m のところにあり、径 25 cm の円形、深さは 13 cm を測る。覆土は溝と同様であり、位置的にも溝と関連性のあることが考えられる。いずれも、出土遺物はない。

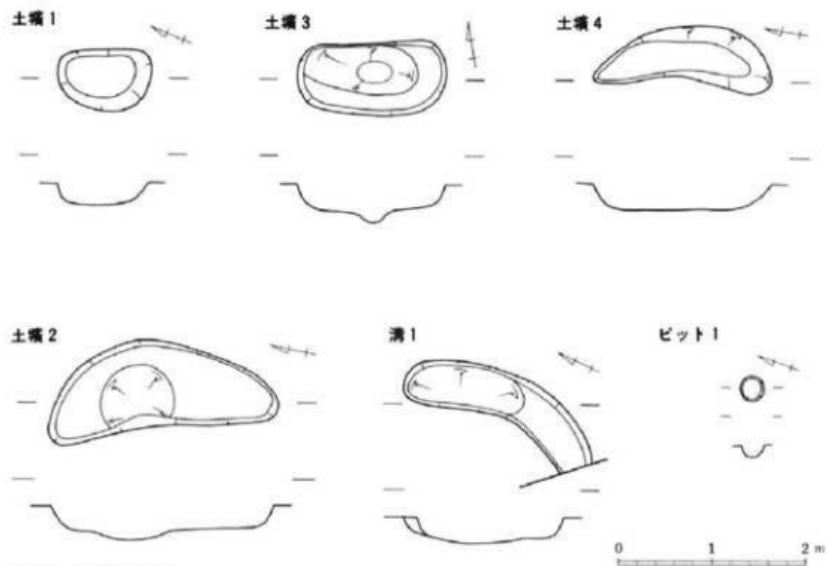
3. 遺物

1 地区検出面から出土した土器片が 1 点あるのみである。内湾しながら立ち上がる無文で厚手の口縁部破片で、形態からみて縄文時代中期のものと考える。

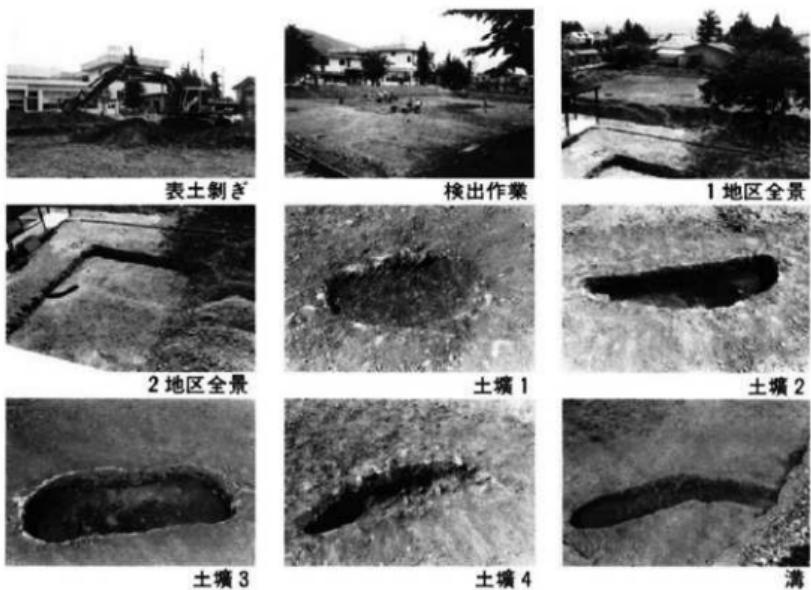
4. まとめ

今回の調査は道路の中心を外れ、僅かな遺構と遺物が発見されたのみであった。土層等の観察からは 2 地区に礫の少ない堆積がみられ、今調査地より東方に遺跡の中心があると考えられる。





第5図 造構実測図



本郷小学校敷地遺跡

例　　言

1. 本書は昭和62年6月8日から18日にわたって実施された本郷小学校敷地遺跡緊急発掘調査の報告書である。
2. 本調査は松本市立本郷小学校の管理・特別教室棟改築に伴う緊急発掘調査であり、松本市教育委員会が直営事業として実施したものである。
3. 本書の執筆は直井雅尚が行い、編集は滝沢智恵子の助力を得た。
4. 出土遺物、測量図面類および作業日誌類は松本市教育委員会が保管している。

目　　次

I 調査経過	
1. 事業の経緯	11
2. 調査体制	11
3. 作業日誌	12
II 調査結果	
1. 概要	13
2. 遺構	13
3. 遺物	15
4. まとめ	15



第1図 本郷小学校敷地追跡分布図と調査位置

I 調査経過

1. 事業の経緯

松本市教育委員会では市内各地の市立小学校・中学校について、校舎の老朽化が進んだものから順次、改築・建て替えを行っており、未着手のところも少なくなってきた。このような経緯のなかで、本年度の改築計画の対象の一つにこの本郷小学校の、管理・特別教室棟が含まれてきた。この改築計画について工事担当課から照会があったのは前年度のことである。ところが、本郷小学校の一帯は「小学校敷地遺跡」という名称で、長野県教育委員会が作成した遺跡分布図に掲載されており、文化財保護法の言うところの周知の埋蔵文化財包蔵地に該当する。このため改築工事に先立ち、当該埋蔵文化財の保護について配意が必要となった。工事担当課と文化財保護担当課の間で保護方法について協議が進められた結果、昭和62年度に校舎改築工事に入る前段に緊急発掘調査を実施して、記録保存を行っていくことで合意を得た。

発掘調査は松本市教育委員会が事業主体となり、現場作業は昭和62年6月8日から開始し、6月18日に終了した。引き続き、調査報告書の作成にとりかかり、昭和62年度3月をもって全てを終了した。

2 調査体制

調査団長 中島俊彦（松本市教育委員会教育長）

調査担当者 神沢昌二郎（市立考古博物館長）

現場担当者 直井雅尚（社会教育課主事）

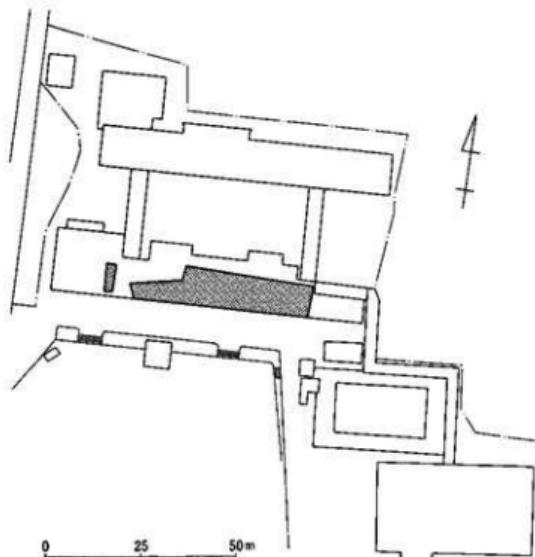
調査員 土橋久子（長野県考古学会員）

協力者 岩野公子、大塚製菓六、小池直人、神戸巖、林 昭雄、藤本嘉平

事務局 浅輪幸市（社会教育課長）、小松 晃（文化係長）、熊谷康治（主事）

3. 作業日誌

昭和62年6月8日（月） 晴	重機（バックホー）による表土除去作業開始
6月9日（火） 曇のち雨	重機（バックホー）による表土除去作業終了
6月13日（土） 晴	発掘機材搬入
6月15日（月） 曇時々雨	遺構検出開始
6月16日（火） 晴	流路1～3を確認、トレーナーをいれて掘り下げ。
6月17日（水） 晴	流路、砂の詰った部分トレーナー継続。写真撮影。
6月18日（木） 晴	全体測量と土層観察。発掘機材撤収。
7月～昭和63年3月	整理作業、調査報告書作成。



トレンチが調査範囲を示す。
実線は現況。

第2図 調査地区範囲図

II 調査結果

1. 概要

今回は調査地は松本市浅間温泉128番地に位置し、地形的には、女鳥羽川左岸の僅かに南に傾斜する平坦地にある。周辺遺跡については木板遺跡の項を参照されたい。

調査面積は、管理・特別教室棟建設予定地のうち、旧校舎建設・解体時の擾乱部分を除き最終的に 404.4 m^2 となった。発見された遺構は、流路の跡とみられるもの3か所、何らかの窓みに砂が溜ったあと2か所、発見された遺物は、検出面から繩文時代中期後半の土器片が1点と時期・種別の判定が困難な土器小片が数点得られたのみである。

2. 遺構

まず、調査地の土層について触れたい。この一帯は旧校舎建設時にかなり造成がなされており、元地目であった水田の耕土上に、60cm前後の盛り土がなされている。さらに旧校舎の基礎工事が旧水田面の20cm下まで入っている部分もある。この旧水田耕土が25cm前後続き、その下部に5cmほどの厚さで水田の床土が形成されている。床土をはがすと、径2~10cm大の礫を多量に含んだ強粘質黒灰色土(IV層)が現われ、ここで流路1・3の検出が可能であった。ちなみにこのⅣ層は、東山山系の岩石が風化・堆積してできるもので、女鳥羽川流域の道路ではかなり広範にみられ、昭和58年度調査の本郷地区洞の塚田遺跡、昭和61年度の大村遺跡でも奈良・平安時代の遺物包含層として確認された。Ⅳ層が約10cm続いた下は砂礫層となり、この層中に流路2やその下部の流路が切り込んでいた。

流路は3本あるが、流路1・3がⅣ層上から、流路2がその下から確認された。流路1は調査区中央やや西寄りを北東から南西にむかって走り、南に行くほど幅を増す。覆土は黄褐色砂の単層で10~30cmと浅く、底面は径10cm大の礫からなっている。流路2は調査区東端部を北から南に向う。幅は1m以上で覆土は褐色砂の単層。流路3は調査区中央の北端から現われ、2mばかり南に行つたところで擾乱に切られ、そのまま消滅してしまう。覆土は流路1と同じだが底面に礫をもたない。



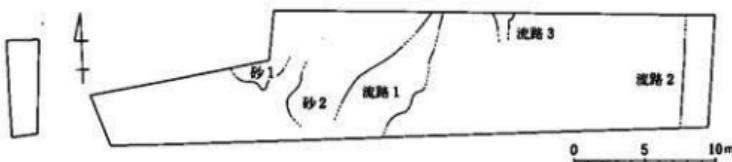
表土剥ぎ



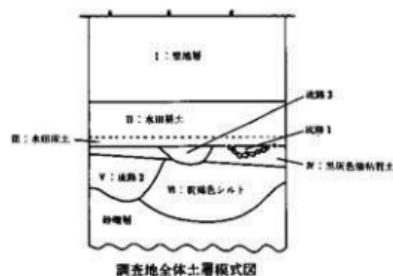
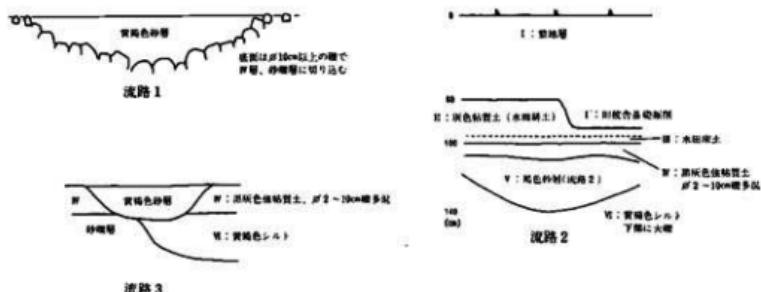
調査地全景



作業風景

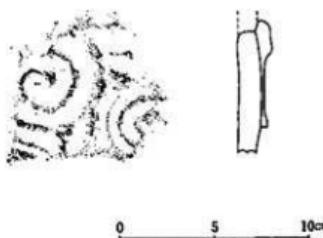


第3図 調査地区全体図



第4図 土層断面模式図

この流路3の下部には黄褐色のシルト層があり、IV層下の砂疊層に切り込む別の流路があることが窺われた。調査区西半に砂の溜っているところが2か所あり、いずれも半分を擾乱で破壊されていたが、流路1と同様の覆土であった。これらの遺構は人為的なものではなく（とすると「遺構」の語は適切ではないのだが）、自然の當力によるものと考えたい。



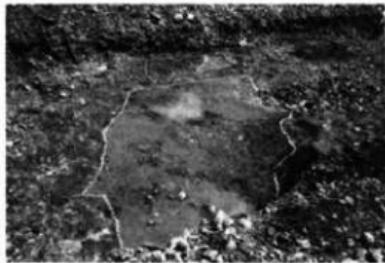
第5図 出土土器

3. 遺物

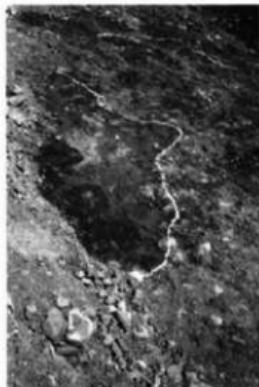
前述のように、検出面から土器片が数点出土している。拓影で示せたものは、上の1点のみである。縄文時代中期後葉の深鉢の口縁部付近の破片で、唐草文の渦巻きが太い隆帯で描かれている。他は摩滅して、種別・器種不明である。

4.まとめ

今調査地は、川の氾濫・堆積に非常に影響されたところだったようで、流路の他にめぼしい発見はなかった。流路は、遺物包含層のIV層の前後に3時期くらいにわたって流れたようであるが、時代を確定するものはない。このような頻繁な流路の形成からみると、本地点は遺跡の中心から大きく外れると考えられるが、拓影の縄文土器片の出土は、単なる流れ込みではなく、案外、すぐ近隣に川の影響を受けることの少ない良好な遺跡が残されていることを暗示しているのかもしれない。



流路 1



砂 1



調査地（西から）



流路 1（トレンチ）

松本市文化財調査報告No.66

松本市杵坂遺跡
松本市本郷小学校敷地遺跡

昭和63年3月20日 印刷

昭和63年3月30日 発行

発行 松本市教育委員会

印刷 アサカワ印刷機
